

熊本県立松橋西支援学校(本校) 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標
心豊かでたくましい児童生徒の育成 ○ 心豊かであるということ ・優しく思いやりがあり、自然や周囲の人を大切にすることができる。 ・自分の好きなことを見つけ、感性豊かに感じ取ったり表現したりできる。 ・友達や教師と積極的にかかわり、気持ちを重ね合わせながら活動できる。 ○ たくましいということ ・自ら健康に気をつけ、体力を高めながら元気に毎日を過ごすことができる。 ・困難さを感じても、自己肯定感を元に挑戦する意欲を持つことができる。 ・自らの生活に目標を持って、積極果敢に取り組むことができる。

2 本年度の重点目標
○ より良い授業 ・育てたい資質・能力を踏まえた年間指導計画の充実(教務部) ・性に関する教育の検討・充実(保健体育部) ・児童生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流の推進(生徒指導部) ・児童生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進(進路指導部) ○ より良い教師 ・教科別の指導における授業作りの検討及び共有(研究部) ・児童・生徒のニーズに応じたICT機器活用の推進(情報教育部) ○ より良い学校 ・校内外の行事(文化芸術鑑賞)・諸活動を見渡した円滑な業務の遂行と、他校との連絡調整(総務部) ・環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上(環境安全部) ・一人一人に寄り添う教育的支援を行うための校内支援の充実(教育支援部)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	時間外勤務時間の縮減を目指した業務改善の実施	・時間外勤務縮減を目標とした計画的な業務の遂行	・主任主事を中心に、各分掌部の業務の見直しと精選を行う。 ・年間360時間超過者の割合を前年比15%縮減する。	・家庭訪問、個別面談時の短縮日課期間を十分に設定し、職員の業務時間の確保を行う。 ・毎月の衛生委員会時に職員の勤務実態を把握するとともに、該当する職員には積極的な声かけと面談等を実施する。	A	・学部主事や各分掌部の主任主事から安心安全な学校づくりに向けた取組の見直し改善について提案させ、業務負担軽減策を踏まえながら運営委員会で具体的な対策案をまとめることができた。 ・毎月の衛生委員会では、月の目標を提示し、職員の心身の健康管理に努めた。また、超過勤務の実態や職員の様子についても随時共有し、積極的な声かけを行い、前年度に比べ、毎月の超過勤務時間は縮減出来ている。
授業の充実	育てたい資質能力を踏まえた年間指導計画の充実	・生活単元学習及び作業学習における指導内容の整理	・指導内容を整理した内容を取り入れた教育課程表及び年間指導計画を作成する。	・指導内容を整理する上で必要となる視点を具体的ににする。 ・学部での検討が十分にできるよう、教育課程検討に係るスケジュールの見直しを行う。	B	・各学部において、生活単元学習及び作業学習における指導内容の整理が進み、教育課程表に反映することができた。その他の各教科等を合わせた指導や、作業学習における職業の取扱いについて次年度継続した検討・改善を行う。 ・長期休業中に学部検討を計画したことにより、年間指導計画作成までのスケジュールにゆとりが生まれ、計画的な作成をすることができた。

	性に関する教育の検討 ・充実	・相手との距離感やプライベートゾーンの指導、意識向上に関する取り組みの検討	・性に関する教育の各学部の取り組みや課題の把握を行う。 ・児童生徒が取り組みやすい相手との距離感等の指導を行う。	・児童生徒が取り組みやすく、楽しんで学べるような教材を準備する。 ・職員、保護者を対象とした講師招聘研修会(性に関する講演会)を実施する。	B	・各学部で児童生徒の実態に応じたグループの編成や複数の学習内容を用意し授業実践を行った。 ・保護者及び職員アンケートの実施により見えた実態に即した課題解決につながるよう課題を整理し、今後の取組についても検討することができた。今後さらに様々なニーズに対応できるよう資料提供や情報共有を行う必要がある。
	個に応じた指導の充実につながる実態把握をする力や授業実践力の向上	・実態把握の方法や適切な特性の理解を踏まえた教科別の指導や自立活動の授業づくりの推進	・各教科の授業検討会を各学部及び縦割り班で行い、ポスターセッションによる実践報告会を実施する。 ・自立活動の基礎基本研修を実施し、自立活動の指導における専門性の向上を図る。	・体育・音楽・図工(美術)の各教科でグループを編成し、意見交換型の学部研を実施する。 ・スキルアップ研修と自立活動基礎基本研修を関連させ、代表事例の授業検討会を実施する。	A	・教科別の授業検討会では、体育・音楽・図画工作(美術)の各教科に分かれて指導の在り方や課題について意見交換を行い、よりよい指導の在り方について検討することができた。また、各グループの実践のまとめをポスターセッションで発表したことで他のグループの実践を知ることができ、情報交換する機会を設定することができた。また、次年度に向けた検討の機会を設け、具体プランを立てることが出来た。 ・自立活動基礎基本研修では、特別支援教育3年未満の職員を対象にして実施したことで、それぞれの困り感に対応する研修を実施することができたが、時間が足りなかった研修内容もあるので、計画の見直しが必要である。
	児童・生徒の情報や機器の扱い方についての情報モラル教育の推進	・教師の情報モラル教育の理解と授業や生活場面での実践。	・本校で課題を把握し、正しい知識や指導方法を学んだ上で、授業等で実践できるようにする。	・職員アンケートを実施し、出た課題についてまとめ、講師招聘の校内研修を実施し、理解を深める。	B	・夏季研修として、講師招聘の情報モラル研修を実施した。教育現場での実践例や教材等、本校の職員が役に立つ情報を知ることができた。事後アンケートでも研修を活かしていきたいという意見が多数であった。研修後は、授業や日常生活の指導における実践実績が増加した。今後は、さらなる授業実践と保護者向けの情報モラル啓発とその連携を目標としたい。
キャリア教育(進路指導)	児童生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進	・小中高連続的で系統的なキャリア発達を促す啓発と情報発信	・自立や社会参加に向けてつきたい力の重点項目を設定し、系統的に育成を図る。 ・保護者のニーズを把握し、それに即した進路だよりを毎月発行する。	・毎月キャリアアップウィークの取組を通じて、つきたい力の啓発と育成に取り組む。 ・高等部の様子や卒業生のくらしぶり、進路先や関係機関からの声など内容の充実を図る。	A	・毎月重点項目を設定し、啓発に取り組むことができた。重点項目については、生徒の様子、職員の反応、福祉の実態などを踏まえ精選し、内容や実施時期など、さらに充実を図っていく。 ・毎月の「進路だより」に加え、学期末に「進路だよりJr.」を2回発行し、より詳しい取組情報を保護者へ発信できた。新たにwebアンケートで保護者の質問やニーズを随時受け付けられる仕組みを作った。本年度は思ったほど

						意見を収集できなかったが、活用 の定着を進める。 ・夏季休業中には、卒業生の保護者を講師に招き、子育て当時の思いや悩み、卒業後の暮らしについて話を聞く研修会を開催した。
生徒 (生活) 指導	児童生徒 会活動の 充実と、他 校や地域 社会との交 流の推進	・委員会活動 内容の充実 ・松橋高校と の交流活動 の充実	・各学部の委 員会活動では 、児童生徒が より良い学校 を作るための 諸活動の計画 を立てる。 ・松橋高校との 交流では年間 の行事の交流 内容を検討し 、計画、実施 を行う。	・委員会活動では 、より良い学校生 活の充実と向上 を目指した委員 会を設定し、児童 生徒が主体的に 取り組むことがで きるようにする。 ・松橋高校との交 流では生徒会を 中心に定期的に 交流を行い、互 いが参加できる 行事の在り方を 検討し、計画、実 施を行う。	A	・今年度、高等部の委員会活動を 始めることができた。それぞれの 委員会で活動を計画したことで、 お昼の放送の充実や、給食エプ ロンの洗濯など、生徒自らが率 先して行う姿が見られた。また、 生徒会、クラス役員では、他の支 援学校とのリモートを使った交流 もでき、学校生活の充実と向上 を目指した取り組みができた。 ・松橋高校との交流では、年間5 回の交流を行うことができた。昨 年度の交流での内容を推進し、 松高スポーツフェスタ(体育祭)、 松高フェスタ(文化祭)へ全校生 徒で参加を行うことができ、交流 活動の充実を図ることができた。
人権教 育の推 進	命を大切に する心を育 む指導の実 践	・職員研修と 人権学習の 充実	・職員研修・人 権学習を計画 的に実施し、 人権感覚を高 める。 ・年間計画を立 て、各学部にお いて実施する。	・人権に関する内 容について職員 研修を年5回行 い人権学習の充 実につなげる。 ・「命を大切にする 心を育む指導」と ともに、人権につ いて各学部で情 報共有し、啓発と 対策を行う。	A	・職員研修は年5回実施すること ができた。他学部の職員と交流 する研修を設け、情報共有や自 身の振り返りをしたり、保護者が 講演していただいて研修を実施 したりして子どもの人権について 考えることができた。 ・各学部で人権学習の授業を計 画的に行うことができた。自他の 気持ちや行動を考えたり、大切 にしたりすることを指導できた。
いじめ の防止 等	いじめの未 然防止・早 期発見・対 策等におけ る取組の充 実	・いじめ防止 の取り組みの 情報発信 ・校内支援委 員会及び関係 機関との連 携の構築	・各校舎に情 報集約担当 者を配置し、 いじめと思わ れる情報を集 約した後の関 係機関との連 携の仕方、対 応について整 理及び職員 への周知を行 う。 ・迅速な実態把 握と職員周知 など、組織的 対応ができる 体制を整える 。	・いじめ防止研修 にて、いじめと思 われる情報を集 約した後の連携、 対応を職員に周 知し、さらに、情 報集約担当者で 集約した情報は 校内支援委員会 と共有して、早期 発見、早期対応 に取り組めるよ うにする。 ・対応マニュアル の改善、見直し を行う。	B	・心のアンケートや情報集約に集 まったいじめに関する案件では、 対応マニュアルに沿って、いじめ と該当するか、いじめを前提とし て認知するかを、初期対応にて 判断し、迅速に対応することがで きた。また、いじめと該当するか、 いじめを前提として認知するかの 違いで、誰がどのように児童生徒 、保護者へ対応するのか、明確 に表すことができた。 ・対応マニュアルの改善、見直し では、今年度の取組を基本の流れ として、今年度及び次年度の 取組を検証して、必要な場合に より、見直しを行っていく。
地域 支援	地域におけ る支援体制 の充実	・地域の学校 等のニーズ に対する専門 的見地から の指導・支	・地域への巡回 相談等での具 体的指導支 援の充実を図 る。	・ニーズに沿った 的確な情報提供 、具体的方策の 提案を行う。 ・巡回相談後の取	A	・課題のある児童生徒について行 動の背景を共に探り、具体的方 策を検討することができた。 ・担当地域学校のほぼすべてを巡 回することができ、各学校の特色

		援		組の状況の確認と適切な継続支援を行う。		や課題を知ることができた。更にそれぞれの学校の実践力を高めるような支援の充実を図りたい。
	人権教育の視点で、よりよい教育的支援を行うための校内支援体制の検討	・児童生徒の障がいや特性、課題の背景を理解し、個々に応じた適切な指導・支援を行うための校内支援体制の整備	・課題共有、情報整理を行い、一人一人の課題に応じた校内の役割分担を明らかにし、必要な指導実践の充実を図る。	・早急な課題共有やケース会議を実施する。必要に応じ、校内支援委員会、関係機関と連携し、具体的実践につなげる。	A	各学部の教育支援部員が得た情報について、定期的な情報交換と、検討ができた。また、ケースに応じて、随時情報を共有できたことで、児童生徒の個々の状況を把握したり背景を考えたりしながら、その後の動きにつなげることができた。必要に応じ、他の分掌部や外部専門機関等と連携して取り組むことができた。特にSCとの連携においては、座談会を設定するなど、職員が相談しやすい環境づくりができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会(総合型)における協力体制の強化	・高等部移転後の松橋高校との連携と相互理解の推進 ・地域に開かれた学校づくりの推進	・定期的に月行事や週時程のすり合わせを行い、連携を行う。 ・相互の交流を行い、生徒及び職員の相互理解を深める。 ・各校舎の地域連携行事等を地域へ発信する。	・月1回定例の両校打ち合わせに加え、生徒会同士との交流を行い、新たな学校行事や共同学習について計画、実践する。 ・地域住民や近隣区内への計画的な情報周知等を行う。	A	・月1回の高校との定例会に加え、必要に応じて随時打合せや情報共有を行い、十分に連携を取り合うことができた。また、松橋高校の校長及びPTA会長に本校の学校運営協議会の委員をお願いし、両校の取組について意見を頂くことができた。 ・前年度の連携・交流に加え、体育祭や文化祭等への参加が実現し、年間通して両校の連携や相互理解を深めることができた。 特に、全校生徒会同士の交流の機会として、対面式や体育祭、文化祭に参加できたことは、大きな相互理解の深まりとなった。
	環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上	・安全で安心な環境づくりと災害時等における安全対策の検討と安全対策マニュアルの見直し	・安全点検結果へ迅速な対応を行う。 ・ヒヤリハットに対する、職員の意識を高める。 ・安全対策マニュアルの見直しと対策の検討を行う。	・安全点検を全学部共通のQRコードを用いた方法にすることで、情報の集約や対応の迅速化を図る。 ・ヒヤリハット週間を毎月1日～7日までに固定し、職員の意識が高まるようにする。 ・3校舎間で共通の安全対策マニュアルを作成し、いつ、誰が、何処で緊急対応する場合でも活用できるようにする。	A	・安全点検については、全校共通のQRコードの作成・活用までは至らなかったが、校舎ごとのQRコードを用いて月々の安全点検を行い、報告及び危険箇所への対応をすることができた。 ・ヒヤリハット週間の固定により、職員の意識は高まった。 ・保健体育部や生徒指導部とも連携協力して、3校舎共通の安全対策マニュアルを作成することができた。併せて、職員研修で全職員に周知し、手元に置いていつでも活用できるようにすることを確認した。

4 学校関係者評価

- 各学部の年間の取組でいろいろな報告があった。小・中・高等部・分教室それぞれの地域の学校との交流をしているが、共生社会の実現に向けたきっかけづくりになり、素晴らしい取り組みとを感じる。また、各学部の特色ある様々なイベントがあり、先生方の準備によって本番が充実したものになっていた。改めて、先生方の日頃の準備や努力に敬意を表したい。
- 学校評価表の評価に関して、本校の人権教育の推進に係る項目では、年5回の研修を実施しておられる実績から、一生懸命取り組んでおられるのでA評価にしても良いのではないかと。
- 松高スポーツフェスタでは、今年度1学期に初めて実施してとても有意義だった。同じ競技を一緒にすることができた。玉入れの競技では、その場でルールを変更できたことで、両校がより楽しめる環境を作ることができた。また、大縄跳びでは、高校と同じルールで対戦できた。文化祭も同様の高等部と松高の生徒、みんなが楽しめる展示や出し物を考えるという学びも大切である。今後、一緒に過ごす中でどうすべきかを考えていくことが大切と考える。
- PTA 執行部でも進路研修を行っているが、学校だけに頼るのではなく、もっと PTA の中でもアイディアを出し合って、取り組めることを考えていきたい。

5 総合評価

- 共生社会の実現に向けたきっかけづくりになり、素晴らしい取り組みと評価をいただいた小・中・高等部・分教室それぞれの地域の学校等との交流を今後とも継続して、より魅力的な取組へと進化させていきたい。
- 高等部は移転になり、新たな形に取り組み始めて2年がたち、両校舎で新しくチャレンジしてきたことの検証を行いながら、子供たちの成長と笑顔が引き出せる年間の取組となるよう心がけるとともに先生方の負担軽減や業務の平準化についても併せて考えていく必要がある。
- 運営委員会を中心に知恵を出し合い、職員全体が対話でき、コミュニケーションを深めることができる環境づくりに努めていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

- 年間を通してこれまでの取り組みの振り返りと整理を行いながら、学校運営協議会でのご意見や学校評価アンケート、学校評価表の評価や課題内容も踏まえて、次年度に向け、「安全安心で児童生徒の笑顔あふれる松西の風土づくり」をテーマに据え、運営委員会を中心にその具体的な改善に向けて取り組んだ。
- 具体策として、重要である児童生徒理解及び実態把握への取組として、次年度から個別面談を年間3回実施することとし、新たに2学期当初に実施する案を計画している。なお、年度当初の児童生徒引き継ぎ会に関しても年度が切り替わる慌ただしい時期の1日目に加え、5月を基準に2回目の引き継ぎ会の場面設定をする計画している。
また、日々の振り返りの時間の確保に係る対策として、水曜日のNO会議デーに加え、原則として金曜日の夕方に児童生徒理解や授業づくり等の活用できる時間を設定することで新たな時間の確保等について提案している。
- その他にも各分掌部から新たな取組を含め、提案を整理し、年度末の年間反省職員会議において共有を図り、次年度に実施できる計画的に進めて参る。